

令和 8 年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第 2 回専門部会（テーマ別分科会） 議事要
旨

日 時 令和 8 年 7 月 13 日(月) 15:30～17:00

場 所 岐阜市役所 6-1 大会議室

出席者	障害者支援施設	4 名
	共同生活援助	15 名
	一般・特定・障害児相談支援	25 名
	委託事業所	4 名
	(合計	49 名)

○検討テーマ…意思決定支援について

意思決定支援では、2024年度報酬の改定において意思決定支援ガイドラインに沿った支援が求められるなど、障がい福祉分野において本人の意思や意向を尊重した支援の重要性が高まっている。

一方で、その実践方法については多くの現場で様々な悩みや課題がみられている。今回は施設入所支援事業所における取組報告及びグループワークを通じて、意思決定支援の実践や課題について協議した。

1. はじめに
趣旨説明

2. 知的入所支援における意思決定支援について

①岐阜県立みどり荘 松野様

岐阜県立みどり荘では、地域移行等意向確認担当者として男女各 1 名を選任している。

施設内指針の作成や個別支援計画への反映については開始したばかりであり、利用者との関わり方も含めて改善の余地があると感じている。具体的な取組として、法人全体で地域移行等確認の帳票を活用する体制づくりを進めているが、帳票の内容や活用方法をどのように充実させていくかが課題となっている。

また、利用者の中には地域移行を希望する方がいる一方で、施設での生活の継続を希望する方もいるため、一人ひとりのニーズを把握しながら、帳票等を活用して具体的な目標を設定し、支援内容を明確にしていく必要がある。

さらに、地域移行等意向確認の取組について職員への周知が十分ではなく、指針の作成や周知方法の検討も課題となっている。加えて、職員と本人の認識の違いや、本人が希望しても家族の理解が得られないケースなど、地域移行を進める上で様々な課題がある。

今後は、相談支援専門員等との連携を深めるとともに、地域移行を希望する利用者への段階的な支援体制についても検討を進めていく。また、制度への対応にとどまらず、施設で暮らす利用者一人ひとりの思いや生活に向き合うことを原点として、支援体制の整備を進めていく。

②岐阜市立第二・第三恵光 時岡様

第二・第三恵光では、自分が着たい服を選んでももらったり、日中活動の際に座る席を自分で決めてもらったりする取組を行っている。また、作業内容や昼食についても自ら選択できるようにしており、「選べる楽しみ」を作ることを意識している。可能な方には部屋に複数の服を用意し、その中から選んでももらっているほか、第三恵光では作業時の席も選んでもらっている。これまで座っていた席に別の利用者が座ることでトラブルになることもあるが、選択する機会を設けている。これが意思決定支援に当たるのか分からない部分もあるが、まずは自分で選べることから取り組んでいる。

地域移行については、「障害者支援施設における地域移行等意向確認マニュアル」を7月から8月にかけて全職員で共有し、指針を作成する予定である。また、9月に支援チームを結成し、地域移行等意向確認担当者を選任したうえで、10月からアセスメントを進める計画としている。

地域移行等意向確認担当者の動きについては、職員それぞれが異なる方向を向いている部分もあるため、マニュアルを再確認するよう共有を行った。地域移行を進めるに当たっては、リスク管理や事前の十分な話し合いが重要である一方、本人の意思を把握することが難しいという課題もある。

一人暮らしのような地域生活が理想であると考えているが、まずはグループホーム等の情報提供や体験利用の充実から取り組んでいきたい。地域移行に向けた活動はまだこれからの段階であり、まずは本人の意向をしっかりと聞くことから取り組んでいきたいと考えている。

3. グループワーク

第1部グループワークでは、入所施設、グループホーム、相談支援ごとに5～6名のグループに分かれ、「普段の意思確認をどのように行っているか」について意見交換を行った。

① 入所施設

意向確認については、半期に一度の個別支援計画作成時に本人へ確認をしているが、実際には意思確認が難しいとの意見があった。また、長期間施設で生活されている高齢の利用者が多く、地域移行の話が出た場合でも、本人や家族の理解を得られるか分からないという課題が挙げられた。

意思表示が難しい利用者に対しては、2～3個の選択肢を提示して選んでもらったり、目線の動きなどから本人の意向を推測しながら支援を行っているとの話があった。また、外食や買い物などを通じて、自ら選択する機会を設けている事業所もあった。

② グループホーム

世話人がこれまで行っていたことを利用者と一緒に行う方針をとっている事業所もあり、世話人が購入していた日用品を利用者自身が選べるよう、一緒に買い物へ行く取組を行っている。また、利用者同士で「何をしたいか」を話し合う機会を設け、職員は話し合いのきっかけづくりや見守りを中心に行っている事業所もあった。さらに、服選びなど日常生活の中で選択する機会を積極的に設けているとの意見があった。

自立度の高い利用者については、本人の話を丁寧に聞きながら意向を尊重して支援を進めている。一方、重度の利用者が多いグループホームでは意思確認が難しいため、一人ひとりに担当職員を配置し、数か月前からアセスメントを重ねながら本人の思いを把握し、支援につなげているとの意見があった。

③ 相談支援

本人の意向と家族の思いが異なる場合もあることから、本人、家族、支援者等が集まり話し合うことの重要性について意見が出された。また、本人の話を聞くだけでなく、その背景や理由について掘り下げて確認しながら意向を把握しているとの意見もあった。さらに、SNSやメールについては、普段言えないことを伝えやすく、記録が残るという利点がある一方で、それだけでよいのかという意見もあった。

第2部グループワークでは、入所施設、グループホーム、相談支援の混成グループにおいて、本人の意思を実現するためにできることや壁となる要因について協議し、課題の抽出を行った。

- ① 本人の意思と健康上のリスクをどのように両立するかについて意見が出た。本人はたくさん食べたいと希望していても、健康面に配慮しながら管理栄養士と相談のうえ食事量を決めている事例が紹介された。また、「温泉に行きたい」という本人の希望を実現するため、事前に様々な工夫や調整を行いながら支援している事例も紹介された。現在では週1回温泉を利用できるようになっているとのことであった。

さらに、昼夜逆転の生活を送っている利用者について、起きている時間帯に在宅で仕事をしているが、周囲の理解を得ることが難しいため、夜間でも働くことができる環境づくりが必要ではないかとの意見も出た。

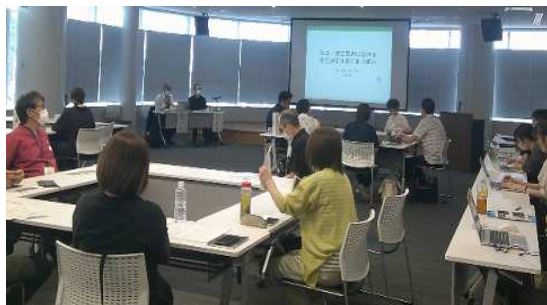
また、日常生活の中で選択する機会を増やすことが、意思決定支援につながるなどの意見があった。

- ② 本人と家族の意向が異なる場合について意見が出た。特に子どもの場合は親の意向が強くなり、最終的に親の意向に沿った決定となることが多いため、相談支援専門員を交えながら時間をかけて話し合う必要があるなどの意見があった。

また、アセスメントシートのようなツールを活用し、親に対して説明や提案を行える仕組みがあるとよいとの意見もあった。相談支援専門員やサービス提供事業所等から適切に情報提供を行うことで、親の考え方が変化し、本人の意向に近づけることができるのではないかと意見も出された。

さらに、本人の要望を相談支援専門員へ伝えても、支援につながるまでに時間を要することがあるため、改善が必要ではないかとの意見があった。

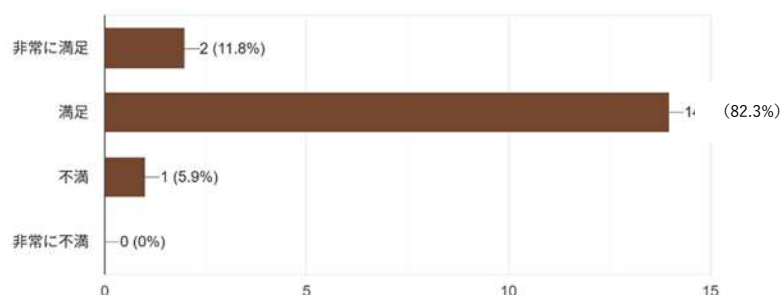
4. 当日の様子



5. 当日アンケートの結果

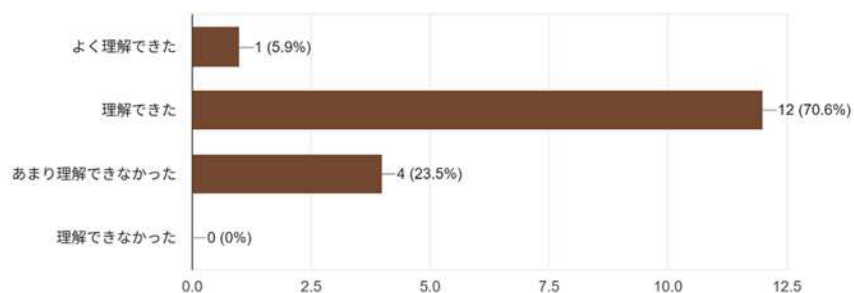
1. 第2回テーマ別分科会の内容はいかがでしたか。

17件の回答



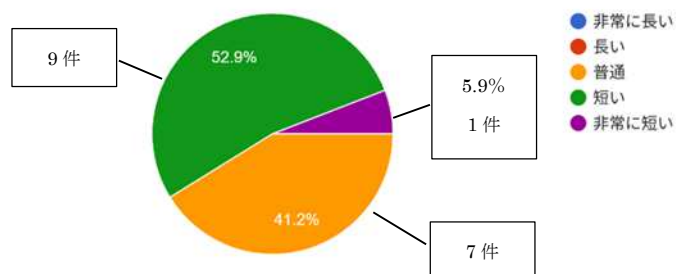
2. 意思決定支援について理解を深めることが出来ましたか。

17件の回答



3. グループワークの時間について教えてください。

17件の回答



6. 意思決定支援についてご意見があれば教えてください。

- 施設やグループホームに入所している方でも、施設内での役割づくりや買い物への同行など、限られた環境の中で取り組めることがあることを知り、本人の思いに近づけるためには多職種で連携していく必要がある。
- どの施設も意思決定支援として形式的に取り組んでいるわけではないが、日頃から利用者の意思を尊重した支援を行っており、今後は意思決定支援として意識しながら取り組んでいきたいと感じた。
- 支援の現場を振り返ると、意思決定支援というよりは選択支援になる場合が多いと感じた。特に意思表示が難しい利用者については、表情や行動、関係者や家族からの情報と合わせて本人の意思を推測し、選択肢を提示しているが、それが正しいのかいつも自問自答している。

- ・ 障がい特性や障害の程度区分によって支援方法の内容に幅があり、重度になるほど様々な手法が必要になると感じた。また、意思決定に当たっては、本人が物事や事柄をどの程度理解しているかを推し量りながら支援する必要がある、その難しさを感じた。
 - ・ 自身の思いを伝えられる方だけでなく、思いを表出することが難しい方への支援について、参加者同士で悩みや課題を共有することができた。正解を見つけることは難しいが、大変勉強になった。
 - ・ 本人の意思を尊重し、うまくいかないことが予想される場合であっても、本人が決めたことであれば挑戦してみることも大切であり、失敗から学ぶ経験も意思決定支援には重要であると感じた。また、本人の思いを実現することや、経験を積み重ねることの大切さを改めて実感した。
 - ・ 「意思を作ること」が大切であるという話に納得した。また、自己決定支援の積み重ねが意思決定支援につながると考えており、福祉に携わる全ての職員が自己決定支援を意識することが重要である。
 - ・ 意思確認の方法や、本人の希望(恋愛等)の実現が難しい場合の支援方法について、さらに深く議論したい。また、意思決定支援の難しさを改めて感じた。
 - ・ 本人と保護者の思いが異なる場合、保護者の意向が強く反映されてしまうことが多いと感じた。本人の意思決定を支援する中で、本人が本当に満足しているのか気になる。
 - ・ 地域移行が進められる中で、利用者や家族の希望によりグループホームへ移行した場合、施設の今後の役割やあり方について考えさせられた。
 - ・ グループワークについては、様々な立場の方が参加していたため、それぞれの意見を共有しながら、互いの意向を尊重できる話し合いができるとよかったとの意見があった。また、事前に立場ごとの意見を整理したり、グループワークの進め方を明確にしたりすることで、より参加しやすくなるのではないかと意見もあった。
7. 障害者総合支援協議会（テーマ別分科会）で、今後取り上げてほしいテーマ、内容があればご記入ください。
- ・ 行動援護の実際の事例や、自立訓練事業所の現場の様子について知りたい。
 - ・ 成年後見制度について取り上げてほしい。